

観光・スポーツ分野 政策1 「おもてなし観光交流都市の推進」

<p>1 目指す姿</p> <p>(1) 観光を通じて、観光客からも、市民からも愛されるまちになっている。</p> <p>市民、事業者、行政が連携し、地域が一体となった観光客への「おもてなし」を通じて、観光客から愛されるまちになるとともに、市民が観光交流都市としてのまちの魅力に誇りを持っている。</p>	<p>＜課題解決が進まない場合＞</p> <p>観光客をはじめとした交流人口が減少する。</p> <p>多様な観光ニーズに対して、観光客が求める観光施策の展開や受入環境の整備が進まず、観光客をはじめとした交流人口が減少するとともに、市民が観光交流都市としてのまちの魅力に誇りを持てなくなる。</p>
<p>(2) 観光関連産業の活性化を通じて、まちの賑わいが創出されている。</p> <p>観光関連産業の活性化が図られ、観光客をはじめとした交流人口が増加するとともに、地域への幅広い波及効果が生まれることで、まちの賑わいが創出されている。</p>	<p>観光関連産業の活性化が進まず、まちの賑わいが失われる。</p> <p>持続的な集客や宿泊稼働率の維持が困難になり、事業者の撤退を招くことで、観光客の受入環境が悪化し交流人口が減少するなど、まちの賑わいが失われる。</p>

＜参考＞ 現状分析・社会潮流（※基本構想原案には、重視すべき項目を中心に抜粋して記載）

		好影響	悪影響
内部環境 (地域特性)	強み (十)	① 世界遺産を有する都市としての高い認知度(国内・国外) ② 豊富な観光資源(豊かな歴史文化・自然など) ③ 市中心部における施設整備(姫路市文化コンベンションセンターなど)、市外からの良好な交通アクセス ④ 宿泊施設の充実による滞在環境の向上 ⑤ 新たな施設整備計画(姫路城ミュージアム・休憩施設・手柄山・JR新駅など) ⑥ MICE誘致体制の構築(ユニークベニューHIMEJIプランの活用など) ⑦ 新県立病院や工業系大学、高度な研究機関の存在	弱み (一)
	機会 (十)	① 観光立国の実現に向けた国の施策の充実(観光プロモーション・訪日外国人観光客対応・キャッシュレス決済など) ② 訪日外国人観光客の増加(訪日外国人市場の拡大)・分散化(ゴールドルート→地方) ③ ゴールドスポーツイヤーズや、大阪・関西万博の開催決定(訪日外国人観光客増加への期待) ④ 歴史的物事への注目、城等への関心の高まり ⑤ メディアの多様化、インターネット・SNS活用拡大 ⑥ 日本版DMOの形成・拡大 ⑦ MICE市場の拡大	脅威 (一)

2 目指す姿を実現するための方向性

＜参考＞現総合計画の施策[第4次実施計画の該当ページ]

- A 都市のホスピタリティの向上[P46]
- B 観光客の利便性の向上[P47]
- C 都心部の魅力を活かした都市型観光の推進[P48]
- D 地域の魅力を活かした滞在型観光の推進[P49]
- E 広域ネットワークによる観光の推進[P49]
- F 多彩な姫路の魅力発信[P51]
- G 国内外からのコンベンションの誘致[P52]
- H 外国人観光客の誘致[P52]

3 市民、地域、企業・団体に期待すること

※ 姫路市まちづくりと自治の条例に規定する基本原則(協働の原則)に基づき、市民、地域、企業・団体それぞれの主体にまちづくりにおける協働をお願いするもの。

(審議会において)ご意見をいただきたい事項
<p>1 「目指す姿」について</p> <p>2 「目指す姿を実現するための方向性」について ＜主な検討課題＞ ア 世界遺産を有する都市としての高い認知度を活かすためには？ イ 観光客が求める、ホスピタリティとは？ ウ 訪日外国人観光客の増加の好機を活かすためには？ エ 外国人を含む観光客のニーズの変化に対応するためには？</p> <p>3 「市民、地域、企業・団体に期待すること」について</p>